



# 内閣統計講習會に出席して

多賀郡磯原町役場書記 長瀬 昇

第十八回内閣統計講習會が七月二十日より二十日間東京帝國大學講堂に於て開催されるに當り、淺學非才なる私が本縣統計協會より派遣せられ、非常に有益な講義を聴くことが出来たことは眞に喜びに堪えない次第である。

茲に甚だ拙文ではあるが、其の概況並に所感の一端を書いて見たいと思ふ幾分でも御参考になり得るならば幸甚である。

私が統計事務に従事するやうになつたのは、昭和十年四月からであるから實に最近のことである。勿論統計學の素養、經驗は更にならなかつたから事務分掌の都合で余儀なく擔任させら

以て、統計學の全般の概念及之に關聯する二三の學問を講習するのであるから、御擔任の講師も聽講する私共も最大の効果を得んとすれば其處に容易ならざる苦心がある、殊に時恰も三伏の酷暑の折であれば心身共に大いに緊張を要した次第である。

聞くとところに依れば、第一回の開催は大正八年の夏で既に開催すること十七回に及び、講習終了者四千七百有余名を算し、年々歳々隆盛に趣きつゝある由にて、當時の講習生は百數十名内外にして、統計學を講習することよりも寧ろ統計思想の普及に専念するの狀態であつたとか、然るに今回は實に四百有余名に達し遠く臺灣、北海道方面より參會せる者もあり、或は亦うら若き數名の女性の參會する等如何に統計が現在社會に於て重要視せらるゝに至つたかを立證するものである。

因みに、第一回以來の聽講生の狀況を左に掲げて見よう。

れた時は全く當惑して仕舞つた。去年兎にも角にも一年有餘を過しその行程を反省するとき全く汗顔に堪えないものである。

今般縣統計協會より講習會に派遣せられたからと云つて、直ちに平常の實績良好であつたかの如く思惟する者があるとするならば誤解も亦甚しいので私に限つては、決してそうではなく、なんとか人並に、水準まで引上げたいとの協會の温情に依つて派遣されたに過ぎないので此の点聊か他の聽講生諸氏とは其の趣を異にしてゐることを自覺して居るものである。

此の講習は二十日間の僅かの會期を

中央	外地	地方	其他	計
第一回	八	七	一	一六
第二回	六	七	一	一四
第三回	四	六	一	一一
第四回	六	九	一	一六
第五回	三	八	一	一二
第六回	三	五	一	九
第七回	六	一	一	八
第八回	二	一	一	四
第九回	一	一	一	三
第十回	一	一	一	三
第十一回	一	一	一	三
第十二回	一	一	一	三
第十三回	一	一	一	三
第十四回	一	一	一	三
第十五回	一	一	一	三
第十六回	一	一	一	三
第十七回	一	一	一	三
計	三三	三三	一	六七

尚今回の聽講生は左の通りである。

中央	外地	地方	其他	計
廳書記	八	一	一	一〇
廳	一	一	一	三
各廳府縣村町計	一	一	一	三
其他	一	一	一	三
技手等	一	一	一	三

## 統計課員異動

八月四日、八月卅一日、九月一日の三回に亘り左の通り統計課員の異動があつた

- (統計課) 關 三喜
- 總務部會計課勤務ヲ命ス
  - (商工水産課) 池田 正雄
- 總務部統計課勤務ヲ命ス
  - (以上八月四日)
  - (統計課) 關 郡司 常成
- 總務部會計課勤務ヲ命ス
  - (統計課) 統計主事補 岡崎 弘
  - 任茨城縣廳總務部統計課勤務ヲ命ス
    - (統計課) 嘱託 齋藤 清市
    - (商工水産課) 雇 部 利男
  - 茨城縣統計主事補ニ任ス 總務部統計課勤務ヲ命ス
    - (以上八月三十一日)
    - (統計課) 雇 山中 平守
  - 茨城縣書記ヲ命ス 松原稅務出張所勤務ヲ命ス
    - (以上九月一日)

## 統計調査員異動

(上は新任) (括弧内舊)

- 昭和十一年四月一日 那珂郡村松村
  - 利雄 (大内 義)
- 全 全 行方郡延方村
  - 小峰 泰 (石山 秀雄)
- 全 全 筑波郡上郷村
  - 秋元 善市 (岡田 清吉)
  - 窪田 虎吉 (窪田 榮助)
  - 安田 芳一郎 (安田 助三郎)
  - 石濱 謙吉 (土田 長吉)
  - 岩田 幸之助 (田村 八十松)
  - 土田 進 (土田 彦三郎)
  - 飯島 清一郎 (伊藤 幸一郎)
  - 鶴見 亨 (淺野 眞市)
  - 光田 直 (澤邊 菊二)
- 全 四月二十日 東茨城郡石塚町
  - 横山 利朗 (海老根 義夫)
  - 横山 陸 (萩谷 一郎)
  - 田上 光夫 (柳橋 鐵之介)
  - 片根 庄次 (片根 馬吉)
  - 西野 爲正 (一木 彌平太)
- 昭和十一年五月一日 稻敷郡大須賀村

統計主事補	1	1	元	1	元	1	元
市町村吏員	1	1	空	3	空	1	空
事務囑託	4	1	1	1	1	1	4
巡查	1	1	6	1	6	1	6
雇人等	2	3	3	元	3	1	3
其ノ他	2	1	1	1	1	1	2
計	3	6	5	6	5	4	2
前年度	1	5	3	?	1	3	3
内修了者	1	2	0	?	?	3	3
備考	今回の修了者は四一名の内三九一名なり。						

今回の講師並に講習科目は次の通りである。

- 一、一般統計
  - 東京商科大学教授 藤本 幸太郎
- 一、人口統計
  - 内閣統計局統計官 森 數樹
- 一、労働統計及労働統計實地調査
  - 内閣統計局書記官 水谷 良一
- 一、經濟統計
  - 内閣統計局統計官 中川 友長
- 一、農林統計
  - 農林省統計官 長畑 健二

- 一、商工統計
  - 商工省統計官 川澄 已知雄
- 一、數理統計
  - 内閣統計局統計官子爵 齋 藤 齊
- 一、統計實務
  - 内閣統計局統計官 杉田 泰二郎
- 一、憲法及行政法
  - 法制局參事官 入江 俊郎
- 一、經濟學
  - 東京帝國大學教授 荒木 光太郎
- 一、財政學
  - 東京帝國大學教授 土方 成美

炎熱と闘ひ居眠りを征服し孜孜として二十日間に亘る講習も滞りなく終了した、今迄曾て踏み入りたることのない學問の領域——統計學の大体の輪廓を臚氣ながらも想像することを得るに至つた、勿論學問的研究は尙今後に俟つべく且亦實際問題も経験未だ淺き私にとつては將來に残された問題である蓋し、理論と實際とは一致すべきは理想ではあるが事實は兎角一致し難い

ものである、然し一應の學問的研究をなすことなくして實務にたつさわることの無暴さは、恰も羅針盤なくして大洋を航行せんとする船舶の如く危険である、今回の講習が私にとつてどれ丈け有益であつたかは多言を要しない唯茲に特に留意すべきは、講習を受けながらと云つて、直ちに信賴性ある正確な統計がひとり出て出来るものでは決してないので、それには大なる不斷の斷力が極めて肝要であると云ふことである。將來實務の上に幾分でも裨益するところあれかしと祈るものである

◆ 今や統計機關は整備し町村に於ても之に要する費用は未だ充分ならずと雖も相當多額の統計費を計上し其の完璧を期してゐるのである。

統計事務を分掌する私共の責務は勿論重大ではあるが、單に私一人のみの力を以てしては到底充分の成果は期し得ないので、茲に實地調査機關である處

の統計調査員の努力に俟つべきものが多し譯である、従つて正確な數字を得るも得ざるも一に統計調査員の双肩に懸つてゐるのであるから調査員の責務も亦重大なりと云ふべきである。然して其の責務は連帶責務であつて十人が十人眞剣でなければならぬ、自分一人位はと思ふことの如何に悲しき結果を招來するかを考ふるならばかりそめにも疎かには出来ぬ、此の点大いに心すべきことであらう、幸に調査員と私共は一丸となつて、更に統計事務の向上に精進し以て此の責務を果すことを念願とするものである。

### 視察記

新治郡林村 統計主任 小松崎 雅一

自動車は道といふ道到る處に走り、愛宕山よりの電波は津々浦々に飛んで日本否世界の隅々まで文化の光は輝い

板橋芳介	(森田 喜次郎)
根本半次	(平井 常助)
飯塚 直	(秋本 邦一郎)
坂本貫一	(坂本 文二郎)
石毛 七五三松	(森田 春吉)
篠原時次	(清水 猪之助)
宮本竹松	(中澤 金藏)
松本高之助	(福山 権平)
飯塚隣平	(岡野 齊助)
全全	新治郡七會村
豊崎 徳重	(鈴木 利通)
全	六月二十五日 多賀郡黒前村
樺村 清	(椎名 武彦)
根本信司	(根本 良春)
須田良一	(須田 章)
全	六月三十日 稻敷郡十倉島村
椿 吉次	(萩原 雄次郎)
全	七月一日 東茨城郡山根村
園部夏吉	(石島 武男)
全	全 鹿島郡大同村
長 健夫	(増設に依る新任者)
菅谷慎一	(長岡 幸男)
全	全 眞壁郡古里村

渡邊 傳一郎	(大島 清五郎)
板橋 芳郎	(板橋 傳市郎)
全	七月三日 鹿島郡高松村
平内 清太郎	(猿田 鐵三郎)
全	七月十日 鹿島郡徳宿村
石崎 敏男	(石崎 庄之助)
城山好道	(鎌田 正夫)
田山勘藏	(田山 仙之助)
全	全 稻敷郡金江津村
根本 優	(川口 庸三)
全	全 筑波郡鹿島村
飯塚 茂	(豊島 英一郎)
沼尻 滋	(色川 勇)
全	全 新治郡美並村
小泉 義男	(車田 宗之助)
全	七月十四日 東茨城郡波里村
安藏 清	(安藏 善太郎)
全	七月十七日 那珂郡檜澤村
平塚 定芳	(大森 丑次)
全	七月三十一日 結城郡豊加美村
小室 廣	(小林 政之介)
全	八月一日 新治郡和村
宮田 龜吉	(小林 太助)

てゐる時だ、やれ農村更生だ、自力更生だと、頭上に打ち鳴らされる警鐘は一体何を物語るのであらう、先祖代々の田地に親ゆりの鋤を持つて、朝に出で夕に歸る仕事、年々の生産額に大した變化もない、やせにやせきつた農村、このまゝで現代に生きて行かれるのだらうか、あまりにも呑氣過ぎはしまいか、如何に自然相手とはいへ、何時までもこうしてゐては自滅するのを待つばかりだ、筑波山の東麓青垣山にこもつたまるばの地、山根盆地の平和な農村の一角にもこうした不安は訪れて來た。

本村中堅人物十名を集めた、林村統計調査員の會合、統計上に示す数字は決して十名の樂觀をゆるすものではなかつた、むしろ不安を否落膽を禁じ得なかつた、十名の者は一心同体經濟論を携い村の寄合の度毎に出席した、そして極力統計思想の普及徹底を期した一年二年やつとのことで計統が小に

模範村の實地視察調査をなすことに決した。

四月二十八日午前七時本村役場前に集合した一行十一名は視察の途に上つた、自動車は希望に満ちた一行を茨城縣廳前へと運んだ。先づ我等の縣廳を一巡し、農人形銅像前にし記念撮影をなし、直に目的地久慈郡賀美村に向つた。

佐川村長始め去る三月十六日農林大臣より輝く大臣賞の榮譽に浴した助川統計主任より實地調査の方法、内容調査研究、其の他の事柄を微に入り細に亘つて説明を受けた、一同感激の裡に賀美村を辭した。今視察記を述ぶるに當り誌上を通して深く御厚志に對し感謝して止まない。

視察員一同何物かを得たるが如く、深く感銘する處あり、無言の裡に速からず努力の報へられんことを期し、時既に午後四時なるも全郡小里村に向つた、それより福島縣東館、矢祭山、袋

しては一家の經濟のため、村のため、大にしては國家のためであるといふことを認識してくれた。併しながら自身自身の經濟の爲に缺くべからざるものであるといふことの認識は仲々深められない、今一段の努力だ、私共は村民一般の會合の席上で、君がたはそんなに働いても働いてもなぜ赤字が出るか氣付かないのか、一冊のノートに一ヶ年の家計を記入して見よとまで聲を大にして叫んだ、努力に努力、なんとかして續けて來たが未だ統計の活用は意の如にならない。

隔月一回發行の百頁に足らない茨城統計隅から隅まで讀んでみる。何かよい工夫はないものか、こうした氣持で一ばいだ。

統計模範村!! 統計模範!!  
こうした見出しに目を止めた、行つて見よう、自分達ばかりであせつても仕方がない、立派に出來上つた處、そこに私共の道を見出さう、調査員一同は

田灌等をめぐり歸村の途についた。願ひば一日の旅、それは僅に十五時間だされど我等の日頃の努力へ暗示する處絶大なるものあるを感じ、統計報國の念をいやが上にもかたからしめた。

### 畑調査の難

### 調査員任命當時

### の憶ひ出

鹿島郡大同村 第六區調査區 大谷 武雄

田 五十二町五反二畝十八歩 五百五筆

畑 五十二町九畝五歩 三百一筆

私は山本義臣氏の後をうけて任命されたもので、氏が不幸にして廿九歳で物故されて二ヶ月目でした、氏は村内群を抜いての模範調査員だったので(氏から直接引継ぎが出來ず参考になる事も聞けなかつた)爲に後釜の私の苦心も容易でなかつた、氏

久家茂市 (豊崎利一)	栗山弘 (大關要)	全	須藤善一 (島田福治郎)	石井環 (増説に依る新任者)	森田要太郎 (全)	本多重治 (全)	眞家重治 (全)	齋藤正之助 (全)	鶴井重男 (全)	全	廣田幸三郎 (塚田彌四郎)	全	渡邊芳市 (渡邊榮四郎)	全	寺門徳重 (加部東寅之助)	全	平野長男 (小松又彦)	全	大里角治 (大里善一)	全	宮本武一郎 (小竹貞市郎)	全	郡司耕一郎 (海東幹治)	全	八月九日 猿島郡中川村
-------------	-----------	---	--------------	----------------	-----------	----------	----------	-----------	----------	---	---------------	---	--------------	---	---------------	---	-------------	---	-------------	---	---------------	---	--------------	---	-------------

### 町村統計主任者異動

(上は新任括弧内舊)

昭和十一年四月一日 稻敷郡大宮村 内藤致一 (豊崎省吾)	全	小田倉靖 (加藤登喜)	全	宇津野竹雄 (山田正二)	全	蘭部力雄 (大澤巖)	全	七月二十一日 那珂郡隣郷村	全	飯田朋春 (青木金之介)	全	八月一日 新治郡新治村	全	石塚正 (小倉茂)	全	八月十日 久慈郡世矢村	全	江崎造酒衛門 (黒澤平)	全
------------------------------	---	-------------	---	--------------	---	------------	---	---------------	---	--------------	---	-------------	---	-----------	---	-------------	---	--------------	---

の如く氏より以上に決心して、當時廿一歳の私が役場へ日参して大崎主任の指導を仰ぎまた他區調査員の經驗談を聞き歩いた、幸い暇の多い私だつたので一踏邁進する事が出来た。

昭和七年三月である——。百五十町歩の山林中に點在する畑五十二町歩を之から吾がものとして調査しなければならぬ任に當つたのだが、さて、自分の現在住んでゐる土地とは言ひ一通りや二通りの苦心ではなかつた第一、一里にも延々して居る持區の端へ行つては如何に地圍を擴げて解らない所が多かつた。人家は遠いし、畑に出て居る人に聞こうと思へばそれが女であつたり、子供であつたり、または相當の男であつたとしても、此の畑が、字何の何番地で何畝歩まで有るなど、は知れよう筈もなかつた、大体にして小作人が多いので字名すら知らず、聽こうと思つた自分が反つて向ふ

兩側にトーモロコシが作つてある等の時の畝歩割

第三に、裸麥と大麥の見分け及び等位

第四に、備考欄休作反別の記入等々……で其の當時自分で随分細心の努力をした心算だつた。

早や今年で五年の昔——憶ひ出のまゝ幼稚な經驗を寄稿する所以であります。

## 縣北見學の一日

行方郡大和村 六 統 生

昭和十一年五月六日我等一行十二名は、本村統計主任平塚氏と農林技手木村氏兩君引率の下に、本縣廳及縣北大子町、賀美村に於ける統計調査事蹟並に特別經濟更生上に關する、參考資料を得んと欲し、見學の旅に就く、本村役場前より自動車二臺に分乘し、號音一聲發車したるは、恰も午前五時也、

から「年貢を一俵とられるですが、本當は何反歩位あるんでせう等ととんでもない事を聞かれる様な譯だつた。それから漸く解つた土地も畝歩でまごつく事があつた。原簿面は一反歩となつて居るけれど一反五畝もあつたり、八畝位ひしが無かつたりして、はて、これは別の所か知らず、地番が違つて居るのか知らず、などと思つたりした。

何しろ山林の間で前者は知らず／＼に耕ひ擴げ、後者は不丹精の結果、萱や篠が生込んで仕舞つたものだ。それから宅地内にある畑にも苦心した。今までの家の屋敷の中に畑があると氣付かず居たものが地圍を見て初めて知り、早速調査に行つたものだ、そして丁寧に統計調査でお宅の裏の畑を見に来たんですが——と言つた迄はよかつたが、其の家の主人はじろ／＼長時く黙つて私を見て居たが顔を洗つて來いときたもんだ。そして遂々其の儘調査もせず歸つて來た事があるが——

清新なる朝の大氣は車窓を襲ふて、轉た爽快を禁じ得なかつた。北浦沿岸なる、津澄、武田の諸名邑を通過する頃は、濃霧死ら太古の昔を偲はしめつゝ、電燈未だ消えざる銚田を經、磯濱縣道を全スピードで疾走し、磯濱町にて左に折れ、直線なるモダン縣道を一トツリで、我れ等が憧憬の水戸に到り縣廳構内に停車す。

我が住める縣を統へる館こそ雲に聳えて雄々しけれ

廳内を遍巡し、屋上展望所に昇る、流石隆昌なる大水戸の都市を、一眸の裡に納めて、快絶を極む、遙かに常磐神社を拜し、徐ろに國體明徴の感を深ふす、時幸ひに、朝靄一掃、輕風脉々碧空朗かになつた、一行快哉を絶叫し好日和を喜ぶ。更に統計課を訪ひ、小林縣廳の統計に關する一場の説明と、目的地に對する諸種の便宜とか與へらる、玄關前に於ける記念撮影を了し、一行謝意を表して廳門を辭す、此れよ

それは後できいて見ると家屋敷まで抵當に入つて居て首が廻らないで居た處だそうで私を土地の周旋で來たと思ひ違ひをして意地燒き紛れに追ひ飛ばしてやらうとしたのだそうだ。

次に地目が變換して居るのにも惱んだ。現在畑として作つて居るのに變換届を出してなかつたり、畑だつたのが山林であつたり、そうかと思ふと一町歩もある一筆の畑の真中が二畝宅地だつたりする事もあつた。

◇

こうしてやうやく調べ上げて、實際に作物を作る畑が五十二町九畝五歩であると算盤をはじた時は随分嬉しかつた。この五十二町九畝五歩が自分のものとして調査するのだ……これから……と言ふ氣が興つた。さて其の之れからだにも亦面喰つたのだ。

第一に、本畑反別と見積反別の則定第二に、一反歩の畑に桑があり、小豆があり、陸稻があり、茄子があり

り大子方面に向ふ途次、谷中二十三夜尊及藤田東湖先生の墓を車中に默拜しつゝ、那珂川架設の木橋を渡り、田村野邑の間を縫ひ、何時しか久慈川畔に至る。水光一碧拭ひる鏡の如き、溪流の急湍輕踏而も妍雅なるを賞し、沿岸の峰巒絶壁にして恰も削るが如き、岩崖に躑躅の眞紅なる、若葉の清新亦愛す可し、絶景の偉觀に、驚異の眼を開き、嘆賞措く克はざるを覺ゆ。

羊腸たる石路曲折せる坂道を、自動車を操り漸くにして袋田村に到る、遙かの瀑音の響轟に一行躍りつゝ、案内子に導かれ險坂を踏み辛ふじて幽邃なる瀧見不動堂前に到る、三拜茲に遊杖を止め觀賞稍久ふす、瀑は直下數仞白龍怒號岩間を匍降の狀、爲めに草木震動岩石碎けんとして、餘沫飛霖の偉觀、到底筆舌の及ばざるや遠し、袋田の瀧があつた。

山間に宛ら布を垂るゝとも見えて眞白き袋田の瀧

岩を出て岩に激して岩に和し岩よ  
り落つる四度の瀧かな

身は即ち桃源の仙境にあるの感を深ふし、退去を欲せざるも時間の關係上再觀を期して割愛す、尙袋田新温泉を探りては、湧出量の多なる浴客の蝟集に驚く、更に車中の人となり大子町に突進す、途上毎戸に翻々たる國旗の掲揚しあるに恠み、里人に問ひば恰も壯丁検査の當日なりと、一行感揚暫くにして、大子町役場に到りたるは午前十一時頃と覺ゆ、刺を通じ來意を告げ樓上に導かれ、喫茶の饗應を忝ふしつ、特別經濟更生上に關する尤も有益なる資料を見學、且つ懇特なる説明を拜聽する榮を得一行欣快たり、要するに舉町一致男女老幼よく更生に全力を捧け今日の大成を建設したるは感激極まり褒辭に窮す、就中農休日の嚴定、假裝行列、農村劇等の施設よく平凡俗樂の裡に、更生心理を喚起する杯、其の着眼の凡ならざる、全國に範を垂る可き

を深感す。

更生の花も實もある話をば我れを忘れてきくやしはらく、宏大なる新築集荷所に於て、而も東都市場、弊價優秀なる松、竹、梅三等級別の促成胡瓜の集積しあるを賞觀する等、在留殆んど時餘、得る所尠少なからざる也、時將に正午たらんとするを以て、深甚の厚意を謝し、急辭某店に會し晝飯を認む、速忽自動車に命じ、矢祭の勝景を探る清瀧岩に激して雷と鳴り、碎けて雲を敷くの狀、掬すべき、溪流に沿ひて北す、沿岸の石峰、岩槽、妙姿、奇態、配するに山躡躑數千株眞紅の花燃ゆるが如く點綴す、造物の至美、自然の勝地、畫手も亦之れを寫す克はざるを覺ゆ、豈新耶馬溪の稱過賞にあらざる也耶馬溪の奇勝も斯くや矢祭の躡躑花さく今日の眺めは入道石達磨岩の奇勝を珍として洞穴觀音を拜す、奥久慈の天地に嘯き其の風景を恣に滿喫し茲に遺憾なし。

世の靡りも埃りも立たぬ奥久慈の一日の旅の面白きかな、八溝山下なる釣橋を揺らるる儘に渡りつゝ、千山萬水の送迎を快とし、談笑の裡に、賀美村役場に到りたるは午后四時過ぐる頃でした、許を得て樓上に昇る卓を擁して統計に關する尤も有意義なる、坐談の説明に一行感を深ふし得る所や甚大なり、重積する書類は皆至誠の結晶、實蹟の表顯、而も係員の特産物として、無上の寶典たり、獨特考案になる調査書類及正確なる計數表等極めて好參考の資料豊富なるに、驚かざるを得ざる也、統計模範村として縣内否全國に鳴る、豈偶然にあらざる事を直感すると同時に、我れ等も驥尾に附さん事を心に銘す。

統計の調査に名ある賀美村の役場を訪ふ、今日の嬉しき時間の許すあらば種々指導を仰がんとす切なるも、如何せん歸路の迫るに驚き、厚意を感謝しつゝ辭去、直ちに車内に納る。回想す

れば往年我が視察員同場訪問種々指導待遇を辱ふせしを、遙かに默謝敬意を表しつゝ、玉簾の清瀧に、旅懷を潔め車中同觀音を拜禮しつゝ、太田を過ぎ着水したるは午後五時過ぐる四十分、生憎雨氣急催して行進至難、於て、某亭に憩ひ夕飯を喫し、疲勞を慰する數時間、幸ひ雨の小降りを機として辭亭、車人となり、不夜城の全市の珍風景を探るも亦一興あらんとて、縦横街路を徐走、賞讃を終り、更に車首を轉じて歸路に向け、快速力を以て疾走一瞬間にして歸省し、旅裝を解く時に、時計は十一時を報す。

### 優良統計村視察

#### 統計協會鹿島郡支部長

本支部員一行二十名千葉縣統計優良町村視察のため五月八日正午千葉縣廳訪問統計課長殿より訓話を受け野中主事補殿の案内にて君津郡根形村視察、

翌九日夷隅郡大原町を視察しました、兩町村を拜見した感想の一端を述べ貴重なる誌上を汚します、幸ひに關係者の御參考になりますれば私の最も光榮とする所であります。會員中事務の都合上沼前村、息柄村、波崎町が欠席されましたことを遺憾に存じます。

一行誰れしもが異口同音に此の視察は最も有意義なりとの言葉を聞き定に嬉ばしく感じました。

夫れは一行が兩町村を拜見して自町の調査方法や調査員の活動状況や書類の整備其の他に於て如何にも幼稚であることを自醒したことであらうと思はれます。

野中主事補殿に引率せられ根形村に行きますと役場と別棟の會議室と覺候しき卓上には所狭き迄關係書類が山と積まれあり手に取らざるも外見のみにて内容の如何に完備し居ることが判りました。

果せるかな一應野中主事補及主任者

の説明を受け居る間に理事者は勿論のこと、主任者と調査員が一心同體となり熱心事務に當り居ることは敬服一驚するの外はありません。

統計思想を一般に普及し理解を得る迄には相當苦心されたさうですが今日では一般に理解し只統計圖表、村勢要覽を配付する位の程度の由です。

調査員手當は年額二十圓で會議は隔月に定例会を午後一時より大抵午後五時頃迄(隨時四回)茶菓で散會するそうです。

但村規程を以て縣より表彰せられざる調査員を村長より表彰し優遇することになつて居ります。

調査員の誠心誠意事に當り居ることは調査票其の他報告書内容等に於て明かだ、申すまでもなく特に主任者の熱心なることは統計日誌(大正十三年より會議の要領質疑應答等細部に涉り記述す)統計改善簿(昭和七年より主任者に於て改善を要する事項を記述し村

長の決裁を受け實行し亦村會を経べき事項は村會の決議を経て實行する等）事務豫定（各調査に付き（月々の分）一ケ年の豫定調査員報告の遅速再調査の顛末村より縣へ報告の顛末等を記入し置き一ケ年成績作成の参考に供する等）

前述の如き至れり盡せりの計畫でありますが故に一般統計事務は押して知るべしであります。

大原町は折悪しく土曜日なると汽車時間の關係上詳細に拜見し得ざりしを遺憾に思ひましたが根形村同様諸帳簿は勿論のこと諸調査書類の整備され居ることには亦敬服の外ありませんでした。

同町調査員は自己用の書類、算盤實地調査用物件一切は役場に備へ置き自宅には何にも置きません。調査時期に役場の通知に基き一同集合し自己の書類物件を携行調査に従事し必ず役場に戻り整理して散會し、翌日亦役場へ集

合前日通りの行動をなすものであります。

別に調査員指導會なるものなく亦年手當を支給せず前述の如く各種調査報告は何れも役場にて整理報告するを以て一回一回の手當を支給す一調査にして勤務日数は七十日内外なる由此の支

給方法は縣下同町のみと聞きました。以上は極めて見聞の一部分に過ぎません「百聞は一見に如かず」と云ふ諺があります、どうか各位に千葉縣統計の御覽をお進めします、そして御互に本縣統計の向上刷新を計りたいと思ひます。

### 投稿 歡迎

- 一、種類に制限ありません（論説、所感、體驗實記、質疑、文藝其の他）奮つて投稿されたい佳作には賞品を呈します。
- 一、用紙は成るべく原稿紙とし文字は明瞭に書かれない。
- 一、原稿には住所氏名を明記すること。（但し誌上の匿名は差支ありません）
- 一、原稿の取捨採否は編輯部に一任されたす。
- 一、十一月號は十月二十日迄に送付のこと。
- 一、原稿は一切返送しません。
- 一、宛名は「茨城縣廳統計課内茨城縣統計協會編輯部」宛のこと。



## 短 歌

### 丹 四 郎 選

#### 『初秋雜詠』

（實）  
北相馬郡東文間村 堀越 正直  
片付けて收穫とちいを待つわが納屋の廣き明るさは目に清しけれ  
草刈りの人にはなれて居る牛の朝露ながらなる草食みにけり  
北相馬郡高野村 倉持 公太郎  
稔り田の垂穂がひまに畦草を刈りかがまりし笠ひとつ見ゆ  
もろこしの垂り穂明るく月の出の片照りうけてしづもれる見ゆ  
新治郡西豊田村 古橋 梅吉  
掘り起せし土の濕りのしつとりと秋の朝は清しかりけり  
今朝來たる西瓜賣より買ひしらし納屋に持ち來ぬ大き西瓜を  
鹿島郡大同村 西 浦子  
北浦の水の面は白く輝きて秋暑けれどはや早稲の出穂  
小山田の畦道ゆけばつぎに蝗はわれに飛びつきにけり  
猿島郡幸島村 小倉 白雨  
初秋の藪の高値を思ひつゝ丘の畑に桑摘みにけり  
久慈郡染和村 豊田 貞次  
しつとりと雨にぬれつゝ鳳仙花午時過ぎし庭のひそけさ  
行方郡武田村 堀 草風  
氣忙しく稼ぎを終へて吾子としも寛く宵のただに樂しき

行方郡大和村 内田 六統生  
ところく赤き小旗のひらめくは坪刈りをする田にしあるらし  
新治郡藤澤村 吉澤 喜一郎  
日ざかりはいまだも暑し少女子の桑摘みて居り山かげの畑に  
久慈郡小里村 吉村 失名生  
油蟬鳴く奥羽路の午下り白衣の行者ただに急ぐも  
新治郡太田村 五十嵐 康尊  
空澄める早生田續きの利根邊り穂波大きく風に揺れつゝ  
同 奥野村 海老原 松光  
いまだしも暑さは残る夕小田にしきりなりけり稲妻のかけ  
行方郡武田村 境 勇  
稔りよき垂穂の上に抜けいでて走り穂見せぬ早稲の走り穂  
眞壁郡五所村 谷 貝 英二  
ひらひらと風にゆられてるかんへうを畑から見れば涼しそう  
なり  
新治郡小幡村 羽生 稻  
裏畑のとうもろこしを吹きなびけ夕風立ちぬ端居のわれに  
稻敷郡生板村 大野 芳雄  
照る月にうつる物影ありありと秋ぞしられて涼しかりけり  
○ 四 郎  
紫湯花の日に對く花も老けにつゝこの庭かげの秋立ちにけり

#### 次回課題

『秋雜詠』『月』 十首以内



俳句

前田猶春選

題『扇』『金魚』

風鈴の鳴るときうごく金魚かな 新治郡藤澤村 柳田華水  
 若き所化扇大きくつかひけり 行方郡武田村 鳥次ゆた香  
 白扇に一筆ものす詩客かな 同 境 翁 水  
 小田城のベンチに憩ふ扇かな 筑波郡小田村 前川 麗 鳥  
 宵の銜金魚を買うて戻りけり 稲敷郡奥野村 海老原松光  
 大いなる水からくりや金魚店 新治郡瓦倉村 増子よし女  
 芝生の陽扇によけて通りけり 同 同 人  
 涼しさに宵の扇をたゞみけり 眞壁郡五所村 谷貝英二  
 脊に遠く雲の峰あり金魚賣 鹿島郡豊郷村 石津思水  
 満月の窓につるして金魚玉 北相馬郡東文間 堀越 宵 雪  
 三疊打スタンドの扇ざわめきぬ 猿島郡幸島村 小倉 宮 市



川柳

山中緋郎選

『ハイキング』

ハイキング歸りは汽車に乗ると決め 鹿島郡大同村 西 浦 子  
 ハイキング出掛ける迄の忙しさ 眞壁郡五所村 谷貝英二  
 ハイキング金も元氣もなく歸り 鹿島郡豊郷村 石津思水  
 ハイキングやはり土産を待つてる子 行方郡武田村 堀 草 風  
 男装にすつかり馴れたハイキング 東京市瀧野川區 小澤良英  
 ハイキングリュクサックが大きすぎ 東京市本所區 磯野吟柳  
 ハイキング其の夜夫婦の若がへり 行方郡武田村 鳥次とり坊  
 鯛にコースをかへたハイキング 京城市 小島大口坊  
 子も何か脊負つて嬉しいハイキング 弘前市 平尾上魯

差し水に金魚さかだち泳ぎけり 筑波郡久賀村 關野玄月  
 ひとり座を離れて扇使ひけり 稲敷郡君原村 小松澤霞翠  
 氷屋の店につられて金魚玉 結城郡上山川 山中久一郎  
 水撒きし朝の舗道の金魚賣 鹿島郡大同村 西 浦 子  
 白扇の書くこともなく古びけり 北相馬郡高野村 倉持公太郎  
 銀扇の踊る灯ちかく光りけり 同 同 人  
 若き日の情熱の歌や古扇 行方郡武田村 向 農 子  
 講習會林間に扇鳴らしけり 新治郡藤澤村 吉沼喜一郎  
 聴衆の扇の波の静かくな 行方郡武田村 堀 草 風

佳作

次の課題

一、秋風 虫 各題通じて十句限り  
 一、締切 十一月五日限り

靴摺れの友を勵ますハイキング 東京市王子區 日野櫻笑子  
 口だけは達者に女ハイキング 朝鮮全南 高田口紅  
 ハイキング都が近いコンバクト 函館市 船樹夢坊  
 ハイキングカメラを持つて遅れ勝ち 京都市 小坂ふじ彌  
 〔佳 作〕 東京市浅草區 中村鐵兜  
 菟印へ一人残つたハイキング 大阪市南區 鳥居柳笑  
 ハイキング活氣を見せる瀧の音 東京市江戸川區 乾 龍之介  
 〔秀 逸〕 眞壁郡川西村 大久保 實  
 ハイキング歸りドライブしたくなり 同 同 同  
 ハイキング遂に無口になつたきり 同 同 同

次號課題

『菊』 葉書五句以内  
 締切 十月二十日  
 宛名 茨城縣廳内統計協會

# 本誌廣告料 値下斷行 大に利用せよ

『茨城統計』は創刊以來一年有餘、特異なる編輯を以て讀者諸君に見え、號を重ねるに隨つて益々發行部數を増し、數多ある機關雜誌中斷然群を抜き、縣内は勿論、中央に於ても相當認めらるゝに至りましたことは編輯部同人の欣快とする處であります。

而して我が『茨城統計』は元より營利を目的とするものではありません、收支相償ふことによつて以て、初期の目的に副ふことが出来ますれば結構なことでありますので、今回廣告料金の値下げを斷行致しました。

◆特別  
一頁表紙金貳拾圓なり金拾五圓に變更  
表裏金拾五圓を金八圓に  
半頁同金拾五圓を金八圓に

◆普通  
一頁 金拾圓を金八圓に  
半頁 金五圓を金四圓に  
四分ノ一金 參圓を金貳圓に  
▼同一廣告を引續き二回以上のときは  
一割五分、五回以上のときは二割の  
割引をします。

▼廣告に寫真挿入又は木版を要するものは其の費用を別に申受けます。  
▼廣告料は前納に願ひます。

茨城縣廳内  
茨城縣統計協會

## 編輯後記

今年の夏は随分暑かつた、殘暑も珍らしく暑かつた。景物として五穀の豊穰となり豊年踊りの太鼓は、笛々としてひびいてゐる。今年位圓滿な秋はなからう。今年位恵まれた秋はなからう。米の調査もこれからだ、秋季調査もこれからだ、今年の秋の收穫は何と出るか、必ずや農家をしてほゝえまゝむる様な數字が出るだらう、これこそ商人も勤め人も等しく望ましいことだ。然し勝つて兜の緒を締めよ』と云ふ諺がある、この秋こそこの諺を忘れてはならない。

× 本誌編輯中に編者病をえて後半ささをさ

であつたが幸に協會諸賢の寛き同情によつてどうやら事なきを得た。  
統計模範町村に掲げた栗原村の手當を公共事業に寄附した事は、事は小さいがその心根は誠に美しい私はこれを誰れにもやつて欲しいとは言はないがかうした心掛だけは誰れにも望ましいものだ。

× 讀者の領分とでも言ふか讀者諸君の寄稿は毎號多くなつたのは喜ばしい。この勢でどしどし投稿してもらひたいものだ。

—富岡如夢—

昭和十一年九月十三日印刷  
昭和十一年九月十五日發行

(隔月一回十五日發行)

一部金十錢

水戸市北三ノ丸茨城縣廳

茨城縣統計協會内

發行兼編輯人 川崎末吉

印刷人 柴博

水戸市南三ノ丸一〇七ノ二

印刷所 柴印刷所

水戸市北三ノ丸 茨城縣廳内

發行所 茨城縣統計協會